

令和8年7月31日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第115回（通算第194回）定例会 会議録

◆日時：令和8年7月21日（火） PM7：10～8：20
◆場所：田辺市医師会館 3F 大講堂
◆出席者：26名 + オンライン 3名

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：10～20：20】

19：10～ 開 会

19：10～19：15 情報提供
紀南病院主催医療従事者向け研修会（7/28・8/17）
介護予防講演会（7/30）
保険医協会紀南支部講演会（8/29）

19：15～19：30 報 告
「デイサービスの居心地のよさと居場所についての
実態調査～利用者への聞き取り調査を通して～」
報告者：デイサービスセンター むろの家
村上 由美子氏

19：30～20：00 意見交換

20：00～20：20 発表・質疑応答

20：20 閉 会

【研修内容】

○デイサービス利用者への実態調査（むろの家）

- ・背景・目的：開設 18 年を迎えたデイサービス「むろの家」が、大切にしてきた「居心地の良さ」を利用者がどう受け止めているかを把握し、今後の実践に役立てるため。
- ・対象・方法：利用期間 2 ヶ月以上で意思表示が可能な利用者 16 名に対し、管理者との 1 対 1 のヒアリング形式で実施。
- ・主な結果：
 - 満足度：利用の楽しさ、過ごす時間、施設環境、接遇、食事、活動の各項目で非常に高い肯定的評価が得られた。「みんなと話ができる」「緊張感がない」「自分のペースで過ごせる」といった声が挙がった。
 - 今後の希望：「お手伝い」「野外の散歩」といった希望があった一方、「やりたいことはない」「いつでもやってもらっている」という意見も見られた。
 - スタッフへの信頼：全員が言葉遣いや態度を肯定的に評価。「話を聞いてくれる」「リラックスできる」といった信頼感が語られた。
- ・考察と課題：高い満足度の背景には「気を張らない適度なゆるさ」、良好な人間関係、個別ケアの実践があると考察された。「やりたいことがない」という回答は、不満がない「マイナスのない安定した状態」と推測。今後の課題として、良い関係性を維持しつつ利用者の真のニーズを引き出す工夫の必要性が結論づけられた。

○認知症ケアの基本姿勢と関係性構築

- ・関係性の重視
- ・新しい介護観・認知症観
- ・家族支援

○デイサービスの新たな役割と地域連携

- ・社会資源としての再定義：デイサービスを単なるサービス提供の場から、利用者・家族・スタッフ・ボランティアが「協働」する地域に開かれた社会資源へと転換する必要性を主張。
- ・多職種連携の課題：グループワークでは、デイサービス、ケアマネ、医療、行政といった多職種間の連携がまだ「点」であり、地域全体として繋がっていない現状が指摘された。情報共有とコミュニケーションの深化が求められる。
- ・多様なニーズへの対応：利用者（休みたい）と家族（活動してほしい）のニーズの乖離や、制度からこぼれる人々への対応、地域の距離の問題など、デイサービス選択における課題が議論された。
- ・特化型サービスの可能性：利用者の個別性に應えるため、特化型デイサービスのアイデアや事例が共有された。

【意見交換】

- ・利用者を中心にしたつながりがなかなか難しい。点と点がつながりにくい。支援者がお互いにもっとコミュニケーションが取ればいいと思う
- ・みんなが同じ目的で情報を共有できて、支援できるといいのに
- ・家族の希望や本人の意向のすり合わせがニーズに
- ・地域の距離を課題に（例えば、送迎についてなど）
- ・デイの役割やメリットは、本人のモチベーションを高める効果にもなる
- ・デイサービスを利用していない時間の活用も重要
- ・デイの特色と本人の希望がマッチすれば効果的
- ・体力の維持はサービス量と関連する。介護度が下がって、サービス量がへると体力の維持が難しいこともある。
- ・利用者の本音が望む暮らしの把握につながる。それを実現するためにできることはなにか考える
- ・移動範囲が減少すると、地域の人との交流も減少する。デイが健康増進の場にもなる。
- ・利用者が主役のデイであってほしい。
- ・本当はデイを使ったほうがよさそうな人なのに、デイに行きたがらない人も。どのように声掛けをすればいいのか悩む

- ・ ささいな日常生活が大事であることを理解する
- ・ 利用者に共感する気持ちから、関係性ができる

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和8年8月18日（火） 午後7時～

場所：田辺市医師会館 3F 大講堂

内容：遺品整理